

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今季事業達成目標)	＜プロジェクト目標＞ ネグロスシルク事業をモデルとする養蚕普及振興のためのリーダー及び養蚕短期研修による農家育成を通じて、国内6州（ベンゲット州、ヌエバビスカヤ州、東ミサミス州、ア克蘭州、イロイロ州、アンティケ州）に養蚕普及が図られ、新たな養蚕農家の誕生とともに繭及び良質の生糸が増産される。 ＜今季事業達成目標＞ 各州における養蚕普及のためのリーダー育成セミナー及び養蚕農家向け短期研修、さらに桑苗植え付けによる桑園整備等に重点を置き、蚕飼育試験によるモデル農家の誕生を目指す。 ①地区リーダー 78名 ②養蚕農家及びモデル農家 120名（繰越115名） ③訪日研修による日本の蚕糸業理解 9名×2回 ④生繭生産 3年次目標 16,000kg（6州：3,000kg） ⑤生糸生産 3年次目標 1,900kg（6州：350kg） ＜今季事業達成状況＞ 昨年度に引き続き、今年度もコロナウイルス＝デルタ株、オミクロン株の蔓延に見舞われ、継続的に政治的・経済的社会活動が制限された。感染の蔓延状況に応じ、島、州、及びバランガイ間の道中にチェックポイントが設置され、ヒト、モノの移動がほぼ事業期間中を通して大きく制限された。 上述状況により予定していた活動①、②、③については、下期のように変更された。 ① リーダー育成セミナー オイスカ・バゴセンターにおける対面式のそれに代わり、昨年に引き続きオンライン形式（2日間）で2回実施した。また、その他に PTRI もしくは FIDA と共催で、プロジェクト地（対面式）またはオンラインで、計11回セミナーを実施した。 ② 養蚕農家向け短期研修 コロナウイルスによる隔離期間の設定が2022年2月中旬まで解除されず、同年3月下旬に、参加農家のほとんどがビギナーであるベンゲット州から選抜された2人に加え、ア克蘭、イロイロ各州から各10名ずつを選抜し、期間を5日間に短縮して、オイスカ・バゴセンターで対面式の研修を事業契約終了

	間際によりやく実施した。 ③ 訪日研修による日本蚕糸業理解 コロナウイルスによる隔離期間の設定が解除されず、実施不可能であった。 ④ 生繭生産：3年次実績 8, 1 2 1 kg (6州：6 4 7 kg) ⑤ 生糸生産：3年次実績 6 3 4 kg (6州：4 6 kg) 今年度もコロナウイルス蔓延による移動制限のため、細やかに農家を回ることができず、農家にとっては、適切な飼育指示をタイミングよく受けられなかったことで、上記のような結果とならざるを得なかった。
(2) 事業内容	< 1. 各州地域養蚕振興のためのリーダーを対象とするセミナー > コロナウイルス・デルタ株の状況とそれに対するフィリピン政府の対応を観察し、10月初旬の時点で、オイスカ・バゴセンターにおける対面方式のセミナーを断念し、最終的にオンライン方式で、下記のごとく実施し、参加者を得た。 ① 実施日：10月25、26日 アクラン州 10名、イロイロ州 15名、アンティケ州 25名 東ミサミス州 28名 ② 実施日：11月3、4日 ベンゲット州 24名、ヌエバビスカヤ州 8名 総計110名に対して、オンラインでリーダー・セミナーを実施した。 < 2. 養蚕を目指す農家対象の短期研修 > コロナウイルス・オミクロン株の状況とそれに対するフィリピン政府の対応を観察し、最後まで上記センターでの対面方式での研修実施を追求した結果、2022年3月15日～19日、10名（アクラン州）、同月21日～25日、2名（ベンゲット州）、同月26日～30日、10名（イロイロ州）の計22名に対して実施した。対面式のセミナーでは、ネグロス島のモデル農家を視察、また給桑の方法や蚕室の清掃方法など細やかな蚕の飼育・管理方法について学んだ。対面式の実施だからこそ、養蚕普及員が直接指導を行い、細かな注意点などについても触れながら指導を行った。 < 3. 日本人専門家及び現地スタッフによるセミナー及び実地指導 > 日比両国政府の一般人に対する隔離政策が緩和されず、残念ながら

ら日本人専門家のセミナーは実施不可能であった。しかしながら、オイスカ現地スタッフ及び現地事業統括と協力政府機関 FIDA（農業省所管繊維開発局）及び PTRI（科学技術省所管繊維研究所）が協働で、また対面方式で下記のごとくセミナーを実施した。。

- ① 10月2日 於：東ミサミス州クラベリア 32名参加
- ② 10月8日 於：ベンゲット州タロイノルテ 19名参加
- ③ 11月17日 於：ベンゲット州ナガリサン 18名参加
- ④ 12月11日 於：アクラン州イバハイ 10名参加
- ⑤ 12月12日 於：イロイロ州ランブーナオ 15名参加
- ⑥ 12月13日 於：アンティケ州サンホセ 25名参加
- ⑦ 2月27日 於：ベンゲット州タロイノルテ 15名参加
- ⑧ 3月7日 於：アクラン州イバハイ 10名参加
- ⑨ 3月8日 於：イロイロ州ランブーナオ他 15名参加
- ⑩ 3月9日 於：アンティケ州ベリソン他 30名参加
- ⑪ 3月30日 於：ベンゲット州ナガリサン 15名参加

< 4. 各州地域代表者の訪日研修 >

上記3と同様に、日比両国政府の一般人に対する隔離政策が緩和されず、残念ながら上記訪日研修は実施不可能であった。

< 5. 壮蚕所建設 >

大工、その補助者の一部にもコロナウイルスの感染は広がり、一般的に工期は遅れたが、最終的に下記のごとく壮蚕所を建設した。なお、ベンゲット州タロイノルテに、協力政府機関 FIDA の強い推薦を受け、稚蚕所を1戸建設した。他壮蚕所と同様、プロジェクト終了後のメンテナンス、管理は FIDA、PTRI 及び WASDINSUMIYA（同地に存在する生協）が責任を負う。

(1) ベンゲット州バランガイ・ナガリサン 6棟建設

ベンゲット州バランガイ・タロイノルテ 1棟

稚蚕所 1棟建設

(2) ヌエバビスカヤ州バヨンボン、ジャディ町 3棟建設

(3) 東ミサミス州バランガイ・クラベリア 4棟建設

< 6. その他 >

(1) PNVSCA（フィリピン・ボランティア調整局） 11月12日

(2) PTRI シルクサミット 1月25日

	上記政府イベントに出席し、いずれも当プロジェクトのプレゼンをオンラインで行った。PTRI とは日常的にコミュニケーションを持っており、業務推進の良きパートナーとなっているが、PNVSCA とは普段あまり接触がないのが正直なところであった。しかしながら、このプレゼンを契機に、同局の他 NGO のヌエバビスカヤ視察の際、同州の当プロジェクトの訪問を受け、実際にオイスカが活動している姿を認識していただいた。オイスカ、また当 N 連事業のプロモーションとなり、非常に有益な機会となった。 (3) パナイ島に設置予定の繭乾燥機をネグロス島にある技術大学 (Technological University of the Philippines-Visayas) の協力の下、設置準備した。 (4) 2022 年 1 月、養蚕普及員がオンラインにてフィリピン科学高校 (Philippines Science High School) の学生 (Grade11 と 12 年生) を対象に養蚕についてのセミナーを実施。生徒 60 名が参加した。																																				
(3) 達成された成果	● 3 年次及び 3 年間の裨益者数は以下のとおり。 ※ () 内は事業計画時の直接及び間接裨益者数 ・ベンゲット州ラトリニダッド <table><tr><td>直接裨益者数：220人(170人)</td><td>3年間総人数</td><td>840人</td></tr><tr><td>間接裨益者数：1,800人(2,300人)</td><td>同</td><td>4,600人</td></tr></table> ・ヌエバビスカヤ州ジャディ、バヨンボン <table><tr><td>直接裨益者数：225人(210人)</td><td>同</td><td>585人</td></tr><tr><td>間接裨益者数：2,050人(1,860人)</td><td>同</td><td>4,210人</td></tr></table> ・ア克蘭州イバハイ <table><tr><td>直接裨益者数：290人(270人)</td><td>同</td><td>805人</td></tr><tr><td>間接裨益者数：2,650人(2,800人)</td><td>同</td><td>2,950人</td></tr></table> ・東ミサミス州クラベリア、オボル <table><tr><td>直接裨益者数：540人(220人)</td><td>同</td><td>1,090人</td></tr><tr><td>間接裨益者数：2,400人(2,300人)</td><td>同</td><td>5,650人</td></tr></table> ・イロイロ州ランブーナオ、ビンガワン <table><tr><td>直接裨益者数：205人(190人)</td><td>同</td><td>590人</td></tr><tr><td>間接裨益者数：1,950人(1,800人)</td><td>同</td><td>2,800人</td></tr></table> ・アンティケ州サンホセ、シバロム、ベリソン <table><tr><td>直接裨益者数：270人(250人)</td><td>同</td><td>235人</td></tr><tr><td>間接裨益者数：2,850人(3,000人)</td><td>同</td><td>2,250人</td></tr></table>	直接裨益者数：220人(170人)	3年間総人数	840人	間接裨益者数：1,800人(2,300人)	同	4,600人	直接裨益者数：225人(210人)	同	585人	間接裨益者数：2,050人(1,860人)	同	4,210人	直接裨益者数：290人(270人)	同	805人	間接裨益者数：2,650人(2,800人)	同	2,950人	直接裨益者数：540人(220人)	同	1,090人	間接裨益者数：2,400人(2,300人)	同	5,650人	直接裨益者数：205人(190人)	同	590人	間接裨益者数：1,950人(1,800人)	同	2,800人	直接裨益者数：270人(250人)	同	235人	間接裨益者数：2,850人(3,000人)	同	2,250人
直接裨益者数：220人(170人)	3年間総人数	840人																																			
間接裨益者数：1,800人(2,300人)	同	4,600人																																			
直接裨益者数：225人(210人)	同	585人																																			
間接裨益者数：2,050人(1,860人)	同	4,210人																																			
直接裨益者数：290人(270人)	同	805人																																			
間接裨益者数：2,650人(2,800人)	同	2,950人																																			
直接裨益者数：540人(220人)	同	1,090人																																			
間接裨益者数：2,400人(2,300人)	同	5,650人																																			
直接裨益者数：205人(190人)	同	590人																																			
間接裨益者数：1,950人(1,800人)	同	2,800人																																			
直接裨益者数：270人(250人)	同	235人																																			
間接裨益者数：2,850人(3,000人)	同	2,250人																																			

・西ネグロス州バゴ市（訪問者等）

直接裨益者数：3,700人 3年間直接総数：16,355人

間接裨益者数：51,000人 3年間間接総数：69,570人

コロナウイルスの蔓延を予想した上での数値であったが、やはり人の動きは活発でなく、「直接裨益者数」、「間接裨益者数」とも概して予想通りであった。そのような状況下、12月中旬にネグロス島を大型台風「オデット」が直撃したのであるが、オイスカ・バゴセンター及び養蚕農家の被害を心配する人々の訪問が後を絶たず、同プロジェクトのコミュニティーへの浸透が如実に示された。

日本全国のオイスカ・メンバーやJICAフィリピンによる資材援助により、4月末には研修センター建造物、養蚕農家の壮蚕所のかかなりの部分は復旧するすることが出来た。今後の養蚕プロジェクトの復興が期待される。

上記を対象に活動を継続し、以下の成果が確認された。

＜1＞各州地域養蚕振興のためのリーダーを対象とするセミナー

期待される成果：全国6州で、78名に対し実施、

→1) ベンゲット州 24名、2) ヌエバビスカヤ州 8名、3) ア克蘭州 10名、4) イロイロ州 15名、5) アンティケ州 25名、6) 東ミサミス州 28名、計110名に対し、実施した。

3年間総計では、下記のとおり実施した。

1) ベンゲット州	48名	4) イロイロ州	25名
2) ヌエバビスカヤ州	21名	5) アンティケ州	37名
3) ア克蘭州	28名	6) 東ミサミス州	59名

＜2＞養蚕を目指す農家対象の短期研修

期待される成果：養蚕農家及びモデル農家120名誕生

→ベンゲット州で3名、ア克蘭、イロイロ各州で10名、計23名モデル農家が誕生した。

3年間総計では、下記のとおりモデル農家が誕生した。

1) ベンゲット州	13名	4) イロイロ州	10名
2) ヌエバビスカヤ州	5名	5) アンティケ州	0名
3) ア克蘭州	30名	6) 東ミサミス州	10名

＜3＞日本人専門家及び現地スタッフによるセミナー及び実地指導

	期待される成果：全国6州で、260名に対し実施 →1) ベンゲット州 120名（4回）、2) 東ミサミス州 32名、 3) ア克蘭州 25名、4) イロイロ州 25名、5) アンティケ州 55名、計257名実施した。 3年間総計では下記のごとく実施した。 <table><tr><td>1) ベンゲット州</td><td>120名</td><td>4) イロイロ州</td><td>30名</td></tr><tr><td>2) ヌエバビスカヤ州</td><td>0名</td><td>5) アンティケ州</td><td>55名</td></tr><tr><td>3) ア克蘭州</td><td>167名</td><td>6) 東ミサミス州</td><td>196名</td></tr></table> <4>訪日研修による日本の蚕糸業理解 期待される成果：9名×2回の訪日 →コロナウイルス蔓延による日比両国政府の隔離政策のため、訪日は不可であった。 3年間合計では、全国から9名に対し実施した。 <5>壮蚕所建設 期待される成果：3州（ベンゲット、ヌエバビスカヤ、東ミサミス）において、計17棟建設 →1) ベンゲット州 壮蚕所7棟、稚蚕所1棟、2) ヌエバビスカヤ州3棟、3) 東ミサミス州4棟。 3年間総計では下記のとおり建設した。 <table><tr><td>1) ベンゲット州</td><td>壮蚕所16棟、稚蚕所1棟</td></tr><tr><td>2) ヌエバビスカヤ州</td><td>壮蚕所 3棟</td></tr><tr><td>3) 東ミサミス州</td><td>壮蚕所 4棟</td></tr></table>	1) ベンゲット州	120名	4) イロイロ州	30名	2) ヌエバビスカヤ州	0名	5) アンティケ州	55名	3) ア克蘭州	167名	6) 東ミサミス州	196名	1) ベンゲット州	壮蚕所16棟、稚蚕所1棟	2) ヌエバビスカヤ州	壮蚕所 3棟	3) 東ミサミス州	壮蚕所 4棟
1) ベンゲット州	120名	4) イロイロ州	30名																
2) ヌエバビスカヤ州	0名	5) アンティケ州	55名																
3) ア克蘭州	167名	6) 東ミサミス州	196名																
1) ベンゲット州	壮蚕所16棟、稚蚕所1棟																		
2) ヌエバビスカヤ州	壮蚕所 3棟																		
3) 東ミサミス州	壮蚕所 4棟																		
(4) 持続発展性	1. 昨年度に引き続き、今年度も政府協力機関 PTRI, FIDA と協働で、ベンゲット、ア克蘭、イロイロ、アンティケ（両州対面方式）、東ミサミス（オンライン形式）各州において、計11回セミナーを開催できたことは、当事業終了後、両機関を中心に事業の維持、管理が望まれるという見地において、非常に有望であると確信している。特に、東ミサミス州を PTRI 職員とモニタリング訪問した時に強く感じるのが、彼らの農家ひとりひとりとの「身近な」距離感である。言うまでもなく、オイスカのネグロス島を中心とする養蚕事業の成功の理由の一つは、同島にオイスカが長年の農業者育成活動を通じて研修生や島民と近しい関係性を築いてきたことによるものである。その結果、PTRI 職員や島民との「距離感」と相通ずるものがあることは、当事業発展に関して、大変心強い。																		

2. ベンゲット州の事業進行に関して、特に2年次のバランガイ・タロイノルテにおける壮蚕所建設事業以降、参加養蚕農家のひとりであるバンダアイ女史の卓越したリーダーシップに助けられる場面が多々あった。同女史は「WASDINSUMIYA」という生協の会長であり、参加農家の多くは会員でもある。同バランガイに建設された幼少期壮蚕所の管理、マネジメントに関して、FIDAと協力して行うことを快諾しており、壮蚕所の隣に住宅を建設し、まもなく引越しの予定である。力強い民間の、しかも現地の協力者を得たことになる。ベンゲット州の同事業の発展に関して、明るい未来が大いに期待される。

3. 事業期間3年の内、ほぼ2年間コロナウイルスの蔓延という「予期せぬ」影響を受けたことは、紛れもない事実である。それ故に、前記したごとく、多くの予定した活動が中止、変更に追い込まれた。誠に無念の思いである。

その上に、当事業発展のキー・ステーションとなるオイスカ・バゴセンターは、前記した「台風オデット」による甚大な被害に見舞われた。その被害に対しては、日本全国のオイスカ・メンバーやJICA フィリピンによる資材援助により、4月末までに研修センター建造物、養蚕農家の壮蚕所のかかなりの部分は復旧した。特にボイラーの復活は、生繭の乾燥に不可欠なだけに、今後の生糸生産の発展に向けて、安堵感とともに大いなる期待感が広がっている。

4. ベンゲット州、東ミサミス州においては、ここまで経験（失敗）を重ねながら、桑の育成の関しては、当事業終了後の4月後期からの雨季開始時期の新苗木植樹、育成が順調に進んでおり、これまで育成しているもの（苗木）と含め、生繭生産のトライアルを今年中にできるものと思われる。また、（建設を）予定された壮蚕所は、全て建設を終了することができた。コロナウイルスの影響下、当事業内において、生繭生産の「準備」がほぼできたことは、誠に健闘したと言えるであろうし、真の養蚕農家の誕生は、ルソン、ビサヤ、ミンダナオ各地で目前に迫っている、と確信している。